

若草のみどりにけふる彼の岸に繪日傘のせてゆく小舟かな
花嫁の來ます夕と村人かわたしはにまつともしひのかけ
春風に桃の花ちる山畑の麥生よりたつ朝ひばり哉

半田 たま

うすくらき杉生の山の道つきて眞萩野こしに渡場はみゆ

長谷川 すか

花見むとむれつゝいつる宮人のくつ音かろしわかくさの野邊
わかくさにかけるふもゆる大野原二月の空はあさみどりにて
牢めくる石のかきねの青きくさこゝにも春はめくり來しかな

濱野 ひで

水あどのなかめさひしき川そびの里の岡へにもゆるわかくさ

日かけさす賤か垣根の雪きえて菊のわかなへ青みそめけり
花くもり小雨になりてくれわたる春野の末にひはりなくなり
なつかしき望の床をよそにして何をひはりの空になくらむ

堀尾 トメ

ふくやかに野は若草のもえそめぬふみなあらしを里のをの子等
うらうらと照れる春野にのどかなる雲雀のうたをきゝつゝぞゆく

千葉 安良

にはどりのかゝふり赤く土黒きせどのかきほに草もえにけり
おさしてゆくひかさのかけに蝶はまふひはりの歌もそらにきこえて

大池 ふさ代

夕かすみしつかにこめし野のおもにおつるひはりのこゑのみをする

河崎 なつ

吉 永 ふみ

ちらちらのこゆきのふれは何となく心さみしくなりもする哉
何となく母のおもはに似るといへばあかす眺むる古ひゝなかな
つややけきつはきのまろは紅の花にふさへるうくひすのこゑ

ほそほそと櫻の中のみほとけの肩にかしらに春の雨ふる
春の雨かたみとなりし芍薬の赤きわかめに終日そふる

あさましくかけよる人をおほらかにのせてこきゆくわたし舟かな

竹尾 恵子

安からぬ心のきはみくらき夜ちひさき舟に河をわたるは
物みれはもの皆かなしかなしさをひとりあつめしわれにやあるらむ
わさをへて遠くはなれむ學ひ屋のこの朝夕ぞさひしかりける

女どはおほく思ひてなす事のいとし少きものにやあるらむ

うらうらとかすめる春の太空のみどりに消ゆるあけひはりかな
春雨にたくひて空の濃青なる色をなかるゝわかゝのやま
雨ふれは川のとまりてにきわひし島田金谷のいまそさひしき
わかむねのうれへの種を培ふとたえすもひびく雨だりのおど
いつの世に何事せむと思ふらむ今日の心のいそかしき哉

わかれゆく日のかなしきのせまり來てふみよむにしもなみたこほるゝ(家をいつるとて)

ゆく人の袖もなつかし薄くこゝ若草もゆる野邊のほそみち

少女子か手籠にあまるわかくさにかゝりて消ゆる春のあは雪

竹田 しづ子

人のする車も船にのせられて人もろどもにわた

る舟かな

舟わたす父をしたひてなくちこのこゑも身にしむ秋の川つら

高橋スエ

雪つふてきそひ打ちしは昨日にて野は若草になりけるかな
すみれさく野邊の芝生に床しめてわれも雲雀となりみてしかな

筒井たか

紫にかすめる山のふもとまでみどりにつく春のわかくさ

うちわたす野邊はみどりにけり小川ひとすち中のこして

年を経てかへれる里のわたしはに昔なからの船うたのこゑ

土屋つね

ゆふ日さすかなたの岸にこゑたてゝ笠きる人の舟よはふなり
袖ぬるゝ里のわたしの朝わたりさすさは毎にはるゝ川きり

中島喜久

くれぬとてやどりをいそぐ旅人の笠に落ち来る夕ひはりかな
音もなく流るゝ河の細き洲に鶯のみひとり立てるさひしさ

中島久

垣根ゆく水の心ものどかなり汀の小草もえいでしより

わかくさはのそみに満てる若人の心の如くおひ出でにけり

中川絹重

をさなくてのるを好みし渡し舟二十の今日はものおそれする

くれてゆく春の野邊こそあはれなれ落つるひはりのこゑはかりして

上村しづか

うなゐ子は雪礫して遊ふらむ氷とちたる野路の古池

さえかへり霞ふるなり背戸の池の汀の氷またむすふらむ

やうやうにかわきそめたる門きよめ熊手にかけぬあたら花草

小林きしの

春ふかみつはなぬく野のあさかすみふかきかな
たにひはりなくなり
麥畑に巣くふひはりのなくこゑにひなやいかに
とあやふまれつゝ

大井川なつは入江の青淵にみどりをひたす若かへでかな

櫻井藤枝

若草のもゆる春野をわかれは招かぬ蝶もまひて來にけり
大淀の川きりいかに深からむ舟よふ人のこゑさ
こゑなり

白鳥しろ

あたゝかき春日にもゆる新草はおひさきながき二葉なりけり
とこしへに言葉の花を匂ふなるしみのすみかど書はなれども

森とみ

昨日こそ山はやきしかいつの間に小草の山とまたなりにつむ
春日野にもゆる若草しとねにてけふの一日をあそひくらさむ

關かね

病いえし母をたすけてあそぶ野の芝生かくれにひはりなくなり
畑うちの翁かへりてくれし野に落つるひはりのこゑののどけさ

田中元恵

さはかりもたちなあかりそ朝雲雀すみの床のひなやまつらん

文科三年 石川房枝

わか心春の小川のそれのこと清らにすみぬ風にむかへは
ふれ粉雪たまれ粉雪と友禪の袖にはつゆきうけし昔よ

馴路なるいさこの上とふるさとのおははと思ふゆきのふる日は

さくら散る春の夕くれ鶯のはのかに鳴くもかな

しかりけり

大竹千葉

梅か枝に鳴く鶯の歌きゝてわかき昔のわれをおもひぬ

しめやかに春雨そゝく梅林人かけたえて鶯の鳴く

みやまより昨日かきつる鶯のかすみにむせふあけぼののこゑ

岡田ひさ

水鳥のうきねかど見る池のたものはすの枯葉に雪のたまれば

たちはなに雪たわわなる朝の庭さ枝はらはむ隨身もかな

あさいせしねみたれ髪を耻らひてこゑはかりきくまどの鶯

髪はすと春の日かけて椽先にたゝつみ居ればうくひすの鳴く

堤はな

雨はれし木々のひまよりあはき霧むらかりいてゝ夕となりぬ

山下さい

昨日今日こゑたてそめし鶯のつはさのいろにもゆる若くさ

夕されはほの紫に山あひのかすめる中にうたふ鶯

ささらきの花の下にて死なましと願ひし僧に經よむ鶯

雪の丘みどりさやかに大麥の小さき芽見ゆる二月の頃

濃緑の廣き葉こにつむゆきのひまより見ゆる紅椿かな

眞山ふちの

はらはらど落葉そよかせ吹くかせに老いたる母の思はるゝかな

馬ひきて家路をいそぐ賤ならむきりのこみちにうたふ聲する

のとけさにあくかれいてゝ若菜つむ野路の一本に鶯のなく

増賀はつ

月あかき一夜を里の秋祭り灯の見ゆるあたりき

七十八

快よくさうしに眼はしらする文机の上に匂ふしら菊

松一つたてる廣野の雪の上につめたくうかふ月の影かな

野中しん

こころして天つ少女やならしけむみ雪うるはしふしの初山

夕映に紅葉のいろやまさらむをたちなかくしそやまの秋さり

秋に入る廣野の末にみゆるかな桔梗色なる夕くれの雲

山川はつ

ひゞきいつる夕の鐘もおもけなり森もみ寺もきりにかくれて

にはつどりのかけの聲さへ埋もれて夜あけさひしや雪のふるさと

わか門の柳の糸の長ければ來鳴く鶯どめてかへさし

梅柳はのかにうかふあけほのゝかすみにこもるうくひすの聲

りしろうして

福田ふめ

きりふかきたそかれ時にいてゝ見ればわかすむ家の燈もよし

きぬかさにかすむ春日の影うけていてゝゆく門うくひすのなく

春雨はいつしか晴れてうち烟る堤の柳うくひすの鳴く

ふりやみていつしか月の照りそへる雪の廣野を人かへるらむ

日の光おたやかにさす雪見ればたゝわけもなく涙なかるゝ

淺田房野

きゝなれてなほきゝあかぬ鶯のこゑこそ春のしらべなりけれ

うくひすの鳴く音まねつゝをさなとち謹つみにし昔戀しも

澤口やす

をさなこにわれもましりて雪佛つくりてましを二十すきにき

七十九

うす氷みきははなれてうく朝をこゑなめらかに
うくひすのなく
春風にひふささゆらくかこの中に鶯かひぬわか
き妹
何一つ思はぬ胸は安けくて落つはきなど拾ひて
は居る
故里の竹やふ蔭の紅椿おつる夕のものゝはかな
き

廣間 ひで

ふるさは物皆こひし夏のきて虫喰ふといふ溪
うくひすもよし
静なるやふかけゆけは赤き花一つこはれて鶯の
なく
衣ぬひし去年なつかしきまる窓に紅梅のかけう
くひすのなく
菅野 けい
渡場に舟よふ人のかけもなくみゆきたまれり枯
芦の上に
一夜きて旅ねうれしき乳母か家と枕に近くうく
ひすのなく



春雨に傘してかへる柳原ぬれてきこゆる鶯のこ
る
杉山 はな
門にいて泣く子すかして鶯のなく音をまねぬ
夕月夜かな
永春の神のみくにに美しき御許人召すゆけよう
くひす

雑報

◎本會記事

去月十七日午後一時より第二十二回文科學術
談話會を附屬高等女學校体操場に於て開く、當
日校長中川謙二郎先生、教授下村、下田(次郎)
荻野、西村の諸先生、喜多見、下田(たづ子)、
波佐谷の生徒監諸先生及早川、田中(なほ)の兩
氏來臨せらる、講演順序は左の如し

- 一、瓊子内親王 文四 上村 しづか
- 二、埃及につきて 東京高等師範學校教授 山崎直方先生
- 三、樺太の沿革 文四 中川 絹重
- 全 大池 ふさよ

以上

尙當日は樺太に關する圖書寫真等を數多塊集し
て會場に陳列し來會者の觀覽に供したり、今そ
の主なる圖書の目録を左に記すべし

樺太に關する圖書目録

- 1 蝦夷志 (享保三三) 新井白石
- 2 福山秘府 (安政九) 松前福山府臣源廣長
- 3 北行日記 (寛政四四) 水戸 勝倉村莊屋武石氏藏
- 4 蝦夷草紙 前編 (寛政十二) 最上徳内
- 5 續蝦夷草紙 後編 (文化四六) 近藤守重
- 6 邊要分界圖考 (寛政十) 近藤守重
- 7 北島志 (安政二四) 水戸彰考館(豊田)
- 8 北蝦夷圖説 (安政二五) 常陸間宮倫宗口述
- 9 北虜志 (安政二五) 彰考館編(亮)
- 10 窮北日誌 (明治二五) 岡本文平(阿波)
- 11 最上徳内の書簡寫集
- 12 蝦夷國全圖 (天明四四) 林子 平
- 13 蝦夷島細見圖書 (文化四六) 大田東重滿
- 14 北蝦夷地分間の圖 (間宮林藏)
- 15 北裔備考 (京兆山田聯忠叔草稿)
- 16 松前紀行 (堀田攝津守紀正敦著述)
- 17 蝦夷國風俗人情の沙汰 本田三郎右衛門利明
- 18 樺太及北沿海洲 (東亞同文館二圓半錢)